

平成28年度子ども意見発表会 子ども企画委員発表内容・担当課長との意見交換会での発言（検討）内容および、その後の取り組み状況のヒアリング結果

氏名	テ-マ	子ども企画委員の発表内容（概要）	《参考》 担当課長との意見交換会での 主な発言（検討）内容	《参考》 現在行っている 取り組み	担当所管
1	天野 奈津子	自然環境を活かした複合型施設の設置について	中学生や高校生も自然に触れ合えるような「自然環境を活かした複合施設を作って欲しい。（森林を活かした勉強スペース、屋外の自然を楽しめるプール、自然を見られるサイクリングコース等）	【平塚 子どものしあわせ課長】 八王子には多くの公園がある。具体的には、長池公園や蓮生寺公園には勉強できるようなスペースがある。今ある公園を知ってもらって、活用できるようにする。探せば近くにも似たような公園があるかもしれない。	公園課
2	山本 創太	雑木林の自然を使ったアスレチックの設置について	・子どもが長い時間遊べるような、雑木林を活用した自然のアスレチックを作って欲しい。 ・子どもが長時間遊べるようになると、不審者対策も必要になるため、入口に管理人を置くなどして安心して遊べる環境を作って欲しい。	【平塚 子どものしあわせ課長】 公園は市民と一緒に管理している（指定管理者）ので、地元で公園の使い方の話し合いが出来ると思う。 【宇都宮 公園課長】ターザンロープは、来年の緑化フェアに合わせて、現在整備中の富士森公園に設置予定。	公園課
3	渡邊 佳斐	安心安全な公園の設置について	子ども企画委員の話し合いの中で、公園は危ないので遊びに行ってはいけないという人が多くいた。親が安心して公園に行かせることができるよう以下の提案をする。 ・公園に子どもたちの見守りをするレンジャ-さんをつけて欲しい。 ・公園に柵をつけて、保護者以外の人を入れないようにして欲しい。	【宇都宮 公園課長】 不審者対策として、木が生い茂って子どもたちが遊んでいるのが見えないと不安になるので、伐採・手入れをして遊んでいる姿が見えるようにしている。ケガ防止に関しては、安全マットを敷いたりする。	公園課
4	高瀬 美羽	親と子どもの危険に対する食い違いについて	・子どもたちが思い切り遊ぶことができるように、川の深いところなど危険場所について防犯マップなどに危険を書き込むことが必要。 ・遊ぶための基礎をしっかりとすることで外で楽しく遊べると考える。 ・家の近くは暗くて不審者が出る。危険な目にあったときの対処法が知りたい。	【野田 保健給食課長】 松が谷・鹿島地区は今年度中に防犯カメラが設置される。	（佐藤統括指導主事）
5	五十嵐 春菜	自然を体で感じる体験機会について	・視覚以外、味覚や嗅覚など、体で感じる体験を増やしていくべき。 （自然の食べられるものを食べて、味覚で感じる体験を増やす、木虫水花など自然から学ぶ。等） ・上記を行うには、場所の確保や、食中毒対策をしなければならぬため、大人の協力が必要。	【野田 保健給食課長】 学校給食でも、食育を開催していて、地産地消を勧めている。地元の物を食べることにより、周りの人たちも生き生きする。	学習支援課
6	三嶋 紗良	木の実を使った料理の会の開催について	・植物を観るだけではつまらないという人も多いため、食べたり作ったりしたら、八王子の自然を好きになってもらえると思う。 ・どんぐりクッキー - は縄文時代に作られていたものなので、歴史に興味を持ってもらえる。	市では、はちおうじの食育として、学校給食に八王子産の食材の使用を心掛けており、地産地消に力を入れている。また、八王子産の新米を子どもたちが給食で一緒に食べる「八王子産米を食べる日」を11月に実施した。	公園課
7	下谷 菜々美	採取可能な多様な植物の植栽について	身近な公園に、至るところに生えていて自由にとっていいよという植物を増やして欲しい。 理由：八王子の自然を体感し、興味を持つためには、小さいころの体験から、公園に様々な植物を植えることが効果的。自然で遊ぶことは、子どもの感性を豊かにする。	公園内の花や植物の採取は、市の条例で禁止されている。（八王子市都市公園条例 第3条の2）	公園課
8	佐藤 佑果	身近で安全な動物と触れ合える施設の設置について	八王子は、自然があり、動物もたくさんいるのに、それが活かされていないので、小さいころから自然に親しんで、中学・高校・大学になっても、自然を大事にもらえるよう身近に安全で動物と触れ合える所が欲しい。それが難しければ、まずは、自然と触れ合える機会があるときに呼びかけたり、知ってもらうことから進めて欲しい。	ふれあいの里では、ポニー等と触れ合える。自然観察会などの情報はフェイスブック等で発信している。 【新井 学習支援課長】植物の観察等の体験会があり、フェイスブックやツイッターで情報発信している。	公園課
9	富樫 康仁	「夕やけ小やけふれあいの里 ホタルの夕べ」について	・「夕やけ小やけふれあいの里 ホタルの夕べ」の夜間の開園時間、開園期間を長くした方がいいと考える。 ・さらに夜店を出したり、ツリ-ハウスを作ったりして、お祭りのように子どもたちが楽しめるようにすればいいと考える。	【平本 観光課長】 今年は新聞広告に情報が掲載されたので、予想外に来場者が増えた。来年以降はバスが増便できるかなど、検討していく。自然のホタルを見るためには、期間がある程度決まってしまうので、開園期間の延長は難しい。	観光課

意見交換会後の取り組み状況等のヒアリング結果
<p>【公園課 担当者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、行っている取り組み以上の進捗というものはない。 ・公園は街の基盤であり、ランドマークなので、市民の方が住んでいる所の近くにある公園をわざわざPRするのは意味がない。（有名な公園は、既にHPなどでPRしている。） ・市に公園が無い訳ではない。都の基準は人口1人当たり10㎡だが、八王子市は12㎡あるので、公園は足りている。 ・公園課は、公園という器の作成と維持管理が大事な柱である。 ・公園は、年齢を問わず、どなたでも使ってもらえるように設計されているので、中学生には物足りなかったり、幼児では遊べないとかになってしまう。 ・予算と優先順位の関係で、優先順位の高いもの（地元から要望書が出ている・樹木が住宅の敷地まで伸びているから切る・遊具が壊れているから改修する・トイレが汚れているなど）から処理せざるを得ない。 ・公園課のスタンスと、子ども達のスタンスに違いがあるので、公園課のスタンスを理解してもらうのも必要ではないかと思う。 ・公園課では、中学生を社会科見学で受け入れ、中学生に自分が思う夢の公園というのを作成させている。（作成時には、公園課の業務内容等の説明もしているため、現実的なものが多く出てくる。） ・公園課では、手づくり公園という事業で、公園を作るときには地元住民相手に、ワークショップを何回も開いている。また、公園の改修の際にも、地元の意見を聞いている。 ・公園の整備や改修にあたり、子どもの意見を取り入れることには、賛成であるが、意見を聞けるような仕組み等があると、公園課としても動きやすい。（現在行っているのは、あくまで地元住民の意見を聞いているまでで、子どもの意見のみを聞いているわけではないため。） ・「子どもの意見を聞く」というのが条例化されれば、公園課として、子どもの意見を取り入れやすくなると思う。 <p>【学習支援課 担当者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在開催している講座は、対象年齢が上の方から下の方まで、幅広く行っているが、参加者は高齢者が多いので、どうしても高齢者向けの講座が多くなってしまっている。 ・講座の周知は、HPや広報はもちろん、SNSやタウン紙、新聞等で行っている。子ども向けの講座については、チラシを直接学校に配ったりしているため、周知は行き届いていると思う。 ・講座の申込は、子どものみでは出来ず、保護者の了解が必要。（料金が発生したり、ケガなどのトラブルが起こるため）よって、保護者の目を引くものでないと、申込が増えないというのがある。 ・今後は、八王子ならではの料理教室として、桑の葉を使った料理や、八王子産の野菜を使ったものを企画しているため、参加してみたい。 <p>【観光課 担当者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの増便に関しては、陣馬街道が細く、バス同士のすれ違いが出来ないこともあり、その辺も含めて必要があれば西東京バスと調整してゆく。 ・開園時間の延長を行ってもよいが、近隣住民のことやバス等の交通手段などのバランスをどう取ってゆくのかが大事だと思う。 ・イベントに関する情報が子ども達を含め、参加を考えている方々に届いていないことが課題であるとわかったため、情報発信の方法を、今後、観光課として検討していく。